

受験生は津田沼校舎入り口で手指を消毒後、除菌ブース2基を通り試験会場へ(A日程試験の様子)



NEWS CIT

2021
ニュースシーアイティ 2・3合併号

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

本学志願者増加数 全国1位

令和3年度入試
志願者数全国2位

志願者数の多い大学10校

大学	今年度		昨年度		増減数
	募集人数	志願者数	募集人数	志願者数	
1 近畿	4,963	135,979	4,958	145,350	▲ 9,371
2 千葉工大	1,379	108,707	1,379	103,269	▲ 5,438
3 明治	5,360	99,470	5,370	103,035	▲ 3,565
4 日本	7,709	97,948	7,778	113,902	▲ 15,954
5 早稲田	5,155	91,659	5,415	104,576	▲ 12,917
6 法政	4,224	90,949	4,222	103,628	▲ 12,679
7 東洋	5,634	89,808	5,721	101,776	▲ 11,968
8 立命館	4,797	83,512	4,780	103,669	▲ 20,157
9 関西	3,724	79,526	3,765	87,625	▲ 8,099
10 中央	4,280	77,357	4,315	85,228	▲ 7,871

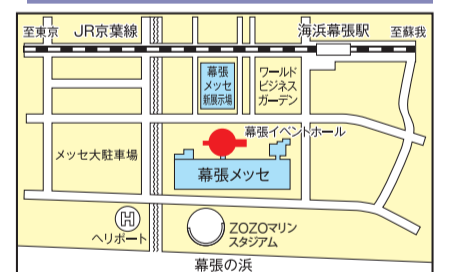
代々木ゼミナール調べ(3/13更新)

ニュースガイド

- 2面 本学建学の精神テーマに朝日教育会議/坂本教授ら脱毛因子阻害する人工RNA開発/赤羽研が自転車安全ルート案内アプリ
- 3面 松田さん学生奨励賞/小川さんも/長嶋さん優秀賞/河野さん学術論文奨励賞/坂野さんらオンライン宇宙セミナー
- 4面 京成電鉄と本学包括協定/尾上教授が日工大生へ講演/千秋上席研究員が中高生に講演/先川原室長がロボ技術授業/佐野教授に学会支部功績賞
- 5面 コロナ禍1年・学生生活一変
- 6面 定年退職の皆さん/タウンキャンパス展示再開

合併号 新型コロナウイルス感染防止策で研究発表の場や催しが自粛されているため、本紙は随時2カ月分を合併号として発行しています。

令和3年度 入学式



令和3年度の入学式は、4月6日(火)午前10時30分から、幕張メッセ・イベントホールで、コロナ禍のためご家族は遠慮いただき、新入生のみが参加して挙行されます。午前10時に開場、学生は当日「学生証」を必ず持参し、開式10分前までに入場してください。式典はライブ配信を予定しています。



試験会場では換気を心掛け、座席は「密」を避けるよう配慮された

総志願者11万人超す

3月5日のC日程入学試験を終え、令和3年度の入学試験が全て終了した。今年の大学入試は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、私立大学の一般選抜は志願者数が激減。競合大学が志願者確保に苦戦する中、本学は今年度も志願者数過去最多を記録し、志願者増加数では全国1位となった。志願者ランキングでは6年連続トップ10入りを果たし、今年度では唯一志願者数を伸ばし全国2位と大躍進した(左上表を参照。(3月13日付代々木ゼミナール調べ))

全国の志願者数減の理由として、浪人生の減少 や、コロナ禍による一般選抜の実施に対する不安

から、年内の総合型選抜(旧・AO入試)、学校推薦型選抜(旧・推薦入試)で合格を決めた受験生が多かったこと、感染拡大する都市部の大学への進学を敬遠する地方の受験生が増えたことなど

2021年度志願者数

試験種	今年度	昨年度	増減
共通テスト利用(前期)	45,537	35,178	10,359
共通テスト利用(中期)	5,892	3,701	2,191
共通テスト利用(後期)	2,819	3,120	-301
A日程入学試験	28,829	33,106	-4,277
B日程入学試験	18,266	20,457	-2,191
C日程入学試験	7,364	7,707	-343
一般選抜計	108,707	103,269	5,438

・代々木ゼミナール調べ(3月13日時点)で近畿大に次ぐ2位となり、推薦、一般と合わせた総志願者数は11万2,266人となった。A日程入学試験は1月31日から4日間、本学試験場と17の学外試験場(1月31日、2月1日のみ)で実施された。3月5日には、C日程入学試験、大学共通テスト利用入試(後期)Ⅱ本学試験なし)を実施。令和3年度入試が全て終了した。C日程入試には7,364人、共通テスト利用入試(後期)には2,819人が志願した。

令和3年度の一般選抜志願者数は、最多を記録した昨年を上回り、10万8,707人(昨年度比54.38人増)となった。昨年は志願者数私大トップ8までが10万人を超えていたが、今年度は、新型コロナの影響で大手私立大は軒並み志願者減となる中、本学は一般選抜志願者ランキング

から、年内の総合型選抜(旧・AO入試)、学校推薦型選抜(旧・推薦入試)で合格を決めた受験生が多かったこと、感染拡大する都市部の大学への進学を敬遠する地方の受験生が増えたことなど

津田沼会場では受験者への安心安全を考慮し、共通テスト時から受験生にはマスク着用を義務付け、各出入り口に消毒液を設置。試験会場となる6号館入り口には除菌ブースも設け、定期的に換気を徹底した。4日間、試験は特にトラブルはなく終了。今年度、A日程志願者数は2万8,829人となった。次いでB日程入学試験が2月17、18日、また大学共通テスト利用入試(中期)Ⅱ本学試験なし)が行われた。B日程入学試験でも17の学外試験場(17日のみ)と合わせて実施した。2月13日夜、宮城・福島両県で震度6強を観測した地震の影響で、東北新幹線の一部区間運転休止となった。本学担当者は在来線などを乗り継いで地方会場へ駆けつけ対応にあたった。ほか、北海道での大寒波も心配されたが、全国17会場、津田沼会場ともに日程通り試験は終了した。B日程の志願者数は1万8,266人。共通テスト利用入試(中期)では58,922人という結果だった。

宇宙探査や鉄器文明語る

「朝日教育会議」を遠隔開催

「朝日教育会議2020」が2月28日、本学の建学の精神「世界文化に技術で貢献する」をテーマにインターネット・ライブ配信で開催された。写真。このフォーラムは朝日新聞社が主催し、本学が共催。同新聞社が首都圏などの大学・法人とのジョイントで開催している連続フォーラムの1環。直面する社会的課題を議論し大学から発信。当日は約千人の当選者がライブ講演を視聴した。



第一部では、松井孝典 学長が「鉄器文明の起源 演。第二部では松井学長

若者たちはチャレンジを

と本学惑星探査研究センター（PERC）の荒井朋子主任研究員、お茶の水女子大物理学科卒で「宇宙女子」を出版したタレント・黒田有彩さんが「宇宙探査の新時代」をテーマにパネルディスカッションを行った。基調講演で松井学長は、本学が私立で現存する工業系単科大学としては国内最古で来年、創立80周年を迎えることを紹介。建学の精神に基づき「科学技術文明が生き残るためには、絶えず技術革新を続けなければならず、そのための研究をしていくことです」と述べた。



鉄器文明の起源について話す松井学長

「科学技術文明が生き残るためには、絶えず技術革新を続けなければならず、そのための研究をしていくことです」と述べた。また、本学地球学研究センターが行っている鉄器文明の起源を探る研究成果に基づき「技術革新する文明は生き残る。その過去の具体例として鉄器文明を考えてみたい」と基調講演を始めた。

今後、日本には火星探査計画（MMX）と深宇宙探査技術実証機（DESTINY+）（テストティニー・プラス）という小惑星探査計画がある。DESTINY+のサイエンスミッションリーダーを務める荒井主任研究員は、

「将来の夢は宇宙飛行士」を実現するため宇宙航空研究開発機構（JAXA）が今秋に新規募集する宇宙飛行士に応募すると明言。これからの日本の宇宙飛行士には多様な人材が求められている、と若者らのチャレンジを求めた。

自転車安全ルート案内アプリ

赤羽研、生徒用に開発

自転車の死傷事故で未成年、特に15〜19歳の占める割合が18.8%と突出している（令和元年・警察庁調べ）。安全最適な交通システムを追求する都市環境工学科・赤羽弘和教授の研究室では、自転車事故を減らすと、中学生以上を対象に、自転車安全ルートに案内するスマートフォン

用アプリ『さいくるサイン』を開発し、普及を目標としている。SDGs（持続可能な開発目標）活動と子どもの活力を生かす事業を展開中の（株）フ



アプリ『さいくるサイン』と赤羽教授



「ちばぎん研究開発助成制度2020」に採択された。

アプリは、該当地のマップを呼び出し、目的地を設定すると、所要時間と事故データなどに基いて算出した安全度（例：44分 64.0点、45分 79.0点、44分 70.0点）が記された最大3つの

「お勧め経路」がカラーの実線が表示される。特に経路上の危険箇所を通る際にはアラート（音と振動）が発信される仕組み。

赤羽研では、昨年10月から船橋市内の中学生たちへの提供効果を分析、アプリの精度向上に役立っている。

事故データは千葉県警本部から、他の危険地点データは国土交通省・千葉県道事務所から提供を受け、船橋市の協力を得て進めている。

脱毛因子阻害する人工RNA

世界初 坂本教授ら開発

生命科学科の坂本泰一教授は2月5日、バイオテクノロジーベンチャーの（株）アドバンジェン、北海道医療大、横浜国立大と共同で、毛髪の脱毛因子「FGF5」の働きを阻害する人工RNAの開発に世界で初めて成功したと発表した。画期的な育毛剤になることが期待されるほか、FGF5は癌化を促進することも分かっている、癌の治療薬

となる可能性もある。毛髪の成長サイクル（毛周期）については研究が進み、線維芽細胞増殖因子の一つ・FGF5が毛根のFGF受容体に結合することが脱毛を促すサインとなっている。今回、坂本教授と天野亮さん（博士課程修了）、笹生みなみさん（生命環境科学専攻修士課程2年）、柳澤拓也さん（修士課程修了）らは、試験管内分子進化法（SELEX法）極めて多様な核酸混合物の中から、特定

の活性をもつ核酸を選び出す方法で、FGF5の働きを阻害する人工RNA（RNAアプタマー人工核酸）の開発に成功。この人工RNAは事前にFGF5に結び付き毛根の受容体と結合できないようにしてしまふ。人工RNAによるアプタマー医薬品は、次世代型分子標的薬として世界で注目されている。坂本研の成果は現在、培養細胞で阻害効果が確認されたのだが、ヒトで効果が認められれば、育毛剤や癌治療薬の実現へ一気に弾みが付くそう。



坂本教授（左）と笹生さん

坂本教授は「粘り強く研究を進めてくれた笹生さんら院生、千葉工大と国のサポートに感謝したい。今後もRNA医薬品の開発に貢献したい」と話している。成果は2月3日付で、権威あるシユプリンガー・ネイチャーのオープンアクセスの電子版サイエンスフィック・リポートに掲載された。

光コネクタ接続条件を検討

松田さん学生奨励賞

電子情報通信学会の光ファイバ応用技術研究会(昨年8月27、28日、オンライン開催)で、松田健太郎さん(工学専攻博士課程3年、長瀬亮研究室II写真)の「標準外径マルチコアファイバ用光コネクタのフェルル端面微小変形解析(2)」が学生奨励賞に決まり2月5日、表彰状が届いた。



現在、光通信で使われる光ファイバー(シングルモードファイバー:S MF)に代わり、容量がはるかに大きくS MFと同径のマルチコアファイバー(MCF)が提案されている。そのMCF同士を接続するにはファイバー間の接続にはファイバー同士を接続できる光コネクタが必要不可欠だ。

MCFに使われるファイナル・コンタクト(PC)方式(端面をわずかに湾曲または球状に研磨してファイバー同士を強制的に接触させる)による光コネクタは、継ぎ手フェルル端面の微小変形によって、温度変動があっても光ファイバー・コアの接触を維持する。

マルチコアファイバーの場合、中心以外にコアがあるため、安定なPC接続条件を新たに検討する必要がある。

松田さんは昨年2月の同研究会で、シルコニア(セラミック)製のフェルルに標準外径4コアマルチコアファイバーを取り付けた場合のフェルル端面の微小変形を解析して報告。凸球面の中心が偏り、光ファイバーが引き込んだ同コネクタの微小変形について新たな結果を報告した。

松田さんは「受賞は、ご指導いただいた長瀬先生や研究室メンバーの協力のおかげで、とても感謝しています。さらに成果を得られるように精進します」と語った。

松田さんは「研究を評価していただき、うれしく思います。3年間、仲林先生と研究室の皆さんのおかげで、研究の楽しさを実感しています」と語った。

松田さんは「研究を評価していただき、うれしく思います。3年間、仲林先生と研究室の皆さんのおかげで、研究の楽しさを実感しています」と語った。

視覚障がい安全に横断を

小川さん学生奨励賞

情報処理学会の第30回コンシューマ・デバイス&システム研究会(1月25、26日、オンライン開催)で、小川暖斗さん(知能メディア工学科4年、森信一郎研究室II写真)が「視覚障害者向け

信号機付き横断歩道の横断支援システムの開発」を発表。学生奨励賞に決まり2月4日、受賞メールが届いた。

横断歩道には視覚障がい者用に、音響付き信号機やスマートフォンで信号機の色を教えるものがある。しかし安全な方向や位置関係は障がい者の方向感覚に頼るため、どの方向へ踏み出したらい

いのか分からず、一歩目は恐怖を伴うという。小川さんは、障がい者が安全に自信をもって横断するには、安全な方向や渡る先の信号機の位置などを認識する必要があると考

えた。そこでスマホを腕に装着した状態で振って横断歩道を撮影。撮影情報を元に計算することで、安全な方向の算出と、信号の位置を推定する方法を

検討した。研究室内に横断歩道を再現し、ハフ変換(図形検出)や角度計算を駆使して、障がい者がかざすスマホに、安全な方向と、先の信号機などを伝える方法を考

えた。小川さんは「受賞できたことを大変うれしく思います。協力していただいた視覚障がい者の皆様、共同研究者の松本宝さん(同学科4年)、指導の森教授には感謝しかありません」と語った。

環境分野の研究者で構成する環境情報科学センターが募集した第20回(2019年度)環境情報科学センター賞で、河野恭佑さん(20年に工学専攻博士後期課程修了、小田原市研究室、現・小学校理科講師II写真)の「都市街区内における熱・放射環境場の時空間変動特性に関する研究」が

学術論文奨励賞に選ばれた。河野さんは「受賞できたことを大変うれしく思います。協力していただいた視覚障がい者の皆様、共同研究者の松本宝さん(同学科4年)、指導の森教授には感謝しかありません」と語った。

ITビジネスで学習手法実験

長嶋さん優秀賞

教育システム情報学会の2020年度学生研究発表会(関東地区)は3月8日、オンラインで開催され、長嶋啓太さん(情報科学専攻修士2年、仲林清研究室II写真)の「シェアリングエ

コノミーのビジネスモデルを主題とした学習手法が優秀賞を獲得した。長嶋さんは仲林研で、情報ネットワーク技術を

生かした学習支援方法を研究している。シェアリングエコノミーとは、「メルカリ」や「Uber」などネットを介したIT時代のビジネスモデル。経営とITの両面から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。

長嶋さんは「メルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。長嶋さんはメルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。

長嶋さんは「メルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。長嶋さんはメルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。

長嶋さんは「メルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。長嶋さんはメルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。

長嶋さんは「メルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。長嶋さんはメルカリ、民泊サービスのAirbnb、Uberの時代から現代ビジネスを学ぶのに格好な主題だが、仕組みが抽象的な面も。



長嶋啓太さん(情報科学専攻修士2年、仲林清研究室II写真)の「シェアリングエコノミーのビジネスモデルを主題とした学習手法が優秀賞を獲得した。

宇宙めざす女性を応援

坂野さんらオンラインセミナー



坂野直子さんと紹介された坂野さんに「宇宙飛行士としての経験や、女性活躍の展望と共催で、本学の坂野文菜さん(工学専攻博士後期課程、和豊研究室)がパネリストとして参加して開かれた。

坂野直子さんは「宇宙飛行士としての経験や、女性活躍の展望と共催で、本学の坂野文菜さん(工学専攻博士後期課程、和豊研究室)がパネリストとして参加して開かれた。

坂野直子さんは「宇宙飛行士としての経験や、女性活躍の展望と共催で、本学の坂野文菜さん(工学専攻博士後期課程、和豊研究室)がパネリストとして参加して開かれた。

街区の熱・放射環境を解析

河野さん学術論文奨励賞

環境分野の研究者で構成する環境情報科学センターが募集した第20回(2019年度)環境情報科学センター賞で、河野恭佑さん(20年に工学専攻博士後期課程修了、小田原市研究室、現・小学校理科講師II写真)の「都市街区内における熱・放射環境場の時空間変動特性に関する研究」が

学術論文奨励賞に選ばれた。河野さんは「受賞できたことを大変うれしく思います。協力していただいた視覚障がい者の皆様、共同研究者の松本宝さん(同学科4年)、指導の森教授には感謝しかありません」と語った。

環境分野の研究者で構成する環境情報科学センターが募集した第20回(2019年度)環境情報科学センター賞で、河野恭佑さん(20年に工学専攻博士後期課程修了、小田原市研究室、現・小学校理科講師II写真)の「都市街区内における熱・放射環境場の時空間変動特性に関する研究」が

学術論文奨励賞に選ばれた。河野さんは「受賞できたことを大変うれしく思います。協力していただいた視覚障がい者の皆様、共同研究者の松本宝さん(同学科4年)、指導の森教授には感謝しかありません」と語った。

環境分野の研究者で構成する環境情報科学センターが募集した第20回(2019年度)環境情報科学センター賞で、河野恭佑さん(20年に工学専攻博士後期課程修了、小田原市研究室、現・小学校理科講師II写真)の「都市街区内における熱・放射環境場の時空間変動特性に関する研究」が

学術論文奨励賞に選ばれた。河野さんは「受賞できたことを大変うれしく思います。協力していただいた視覚障がい者の皆様、共同研究者の松本宝さん(同学科4年)、指導の森教授には感謝しかありません」と語った。



信号機付き横断歩道の横断支援システムの開発」を発表。学生奨励賞に決まり2月4日、受賞メールが届いた。

横断歩道には視覚障がい者用に、音響付き信号機やスマートフォンで信号機の色を教えるものがある。しかし安全な方向や位置関係は障がい者の方向感覚に頼るため、どの方向へ踏み出したらい

いのか分からず、一歩目は恐怖を伴うという。小川さんは、障がい者が安全に自信をもって横断するには、安全な方向や渡る先の信号機の位置などを認識する必要があると考

えた。そこでスマホを腕に装着した状態で振って横断歩道を撮影。撮影情報を元に計算することで、安全な方向の算出と、信号の位置を推定する方法を

検討した。研究室内に横断歩道を再現し、ハフ変換(図形検出)や角度計算を駆使して、障がい者がかざすスマホに、安全な方向と、先の信号機などを伝える方法を考

えた。小川さんは「受賞できたことを大変うれしく思います。協力していただいた視覚障がい者の皆様、共同研究者の松本宝さん(同学科4年)、指導の森教授には感謝しかありません」と語った。

環境分野の研究者で構成する環境情報科学センターが募集した第20回(2019年度)環境情報科学センター賞で、河野恭佑さん(20年に工学専攻博士後期課程修了、小田原市研究室、現・小学校理科講師II写真)の「都市街区内における熱・放射環境場の時空間変動特性に関する研究」が

学術論文奨励賞に選ばれた。河野さんは「受賞できたことを大変うれしく思います。協力していただいた視覚障がい者の皆様、共同研究者の松本宝さん(同学科4年)、指導の森教授には感謝しかありません」と語った。

河野恭佑さん(20年に工学専攻博士後期課程修了、小田原市研究室、現・小学校理科講師II写真)の「都市街区内における熱・放射環境場の時空間変動特性に関する研究」が

京成電鉄と本学、包括協定

沿線エリアまちづくりや、研究で連携



プロジェクトマネジメント学科の授業で、京成電鉄が建築する学生向けアパートのコンセプトを検討する学生たち(2019年)

本学と京成電鉄(千葉県市川市に本社、小林敏也社長)は2月5日、連携・協力に関する包括協定書を締結した。協定は、地域社会の発展に貢献することを目的に、京成電鉄とはこれまで

で京成電鉄が建築する学生向けアパートについて、コンセプトや内装、募集方法などを学生が提案する授業を本学が実施するなど、連携して地域の魅力向上と人材育成を図るよう取り組んできた。今年3月にはその成果となる賃貸住宅が竣工予定。今後も連携して地域社会の発展を目指すよう協定を交わした。



「科学者への道」と、千葉市教育委員会が実施主体となっている「未来の科学者育成プロジェクト」の共同イベントとして開催された。

講演ではまず、昨年末に小惑星「リュウグウ」に人工的にクレーターを作

り、岩石のかけら(サンプル)を持ち帰った小惑星探査機「はやぶさ2」の世界初の偉業について、千秋上席研究員が

「なぜ燃え尽きないのか」という質問に対して、千秋上席研究員は「サンプルカプセルは燃えているが、内部に熱が伝わらないようになっている。表面が燃えることで中が熱くならない仕組みになっている」と回答した。

また、中高生らの関心が高い宇宙の仕事について、千秋上席研究員は「なぜだろう、と思うことは訓練。すぐにネットで検索しないで考えよう。世界は狭くなっていく。研究者は会話力、コミュニケーション力が大事」「お金より何より楽しい人生を送りたい人には惑星探査が向いている。今後、火星、水星、木星の探査が計画されている」などと中高生らに語りかけた。

宇宙空間へ、中高生誘う

千秋上席研究員が講演

惑星探査研究センターの千秋博紀上席研究員が写真IIが講師を務めた中高生を対象とする講演会が3月13日、オンラインで開催された。

演題は「未知なる天体の千秋博紀上席研究員IIに挑戦〜小惑星探査機「はやぶさ2」」。講演では「はやぶさ2」の運用・観測に関わってきた千秋上席研究員と視聴者の

間で「宇宙の仕事に携わるにはどうすればいいか」などの質疑応答が活発に交わされた。

その後、参加した中高生から質問が寄せられた。例えば、サンプルを収納したカプセルは大気

ロボット技術を授業

先川原室長、八街の中学生に

未来ロボット技術研究センター(fuRo)の



先川原正浩室長が1月25日、千葉県八街市の市立中学校4校の1、2年生にロボット工学の最先端技術についてオンライン授業を行い、チャテレビで放映されたII写真(チャテレビ提供)。

授業では映像を交えて、進歩が目覚ましいロボットの数々を紹介。技術の歴史や、日

交流はオンラインで

魅力ある科学技術者へ

尾上教授、日工大生へ講演

本学の尾上薫・応用化学科教授が1月9日、日本工業大で「魅力ある科学技術者を目指して〜環境に対する化学技術のアプローチ〜」と題して講演。技術者を目指す学生たちに、自らの研究生活から導き出した提言などを語ったII写真。

尾上教授は環境保全や資源回収の立場から、家庭排水に電磁波、超音波、紫外線などのエネルギーをわずかに加え水をきれいにする手法などを

研究している。同大学が毎年開く環境特別講演会の講師として招かれた。講演会は、新型コロナウイルスの感染防止対策で対面で約40人、リモートで約200人が参加する形で行われた。

尾上教授は、まず、「魅力は多面的に存在する」との考え方を披露。一生大切に「座右の銘」と成長過程で変わり得る「座右の銘」を持ち、尊敬する科学者がいる。など、魅力的な研究

者になるための人間像を語った。次に、自らの研究体験を交え、アイデアをどうやって生むのか、発想の転換をどのように図るか、などをエピソードを交えながら説明。最後に学生たちに「人に優しくなれば、環境にも優しくなれる」など、4つの提言を贈って講演を締めくくった。

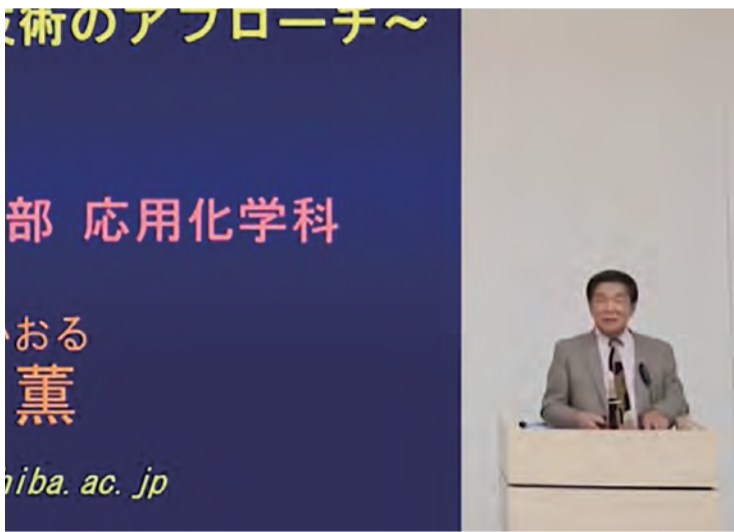
聴講学生からは講演後、4つの提言に関する質問などが多数寄せられた。

「魅力は多面的に存在する」との考え方を披露。一生大切に「座右の銘」と成長過程で変わり得る「座右の銘」を持ち、尊敬する科学者がいる。など、魅力的な研究

者になるための人間像を語った。次に、自らの研究体験を交え、アイデアをどうやって生むのか、発想の転換をどのように図るか、などをエピソードを交えながら説明。最後に学生たちに「人に優しくなれば、環境にも優しくなれる」など、4つの提言を贈って講演を締めくくった。

聴講学生からは講演後、4つの提言に関する質問などが多数寄せられた。

れ、活発な質疑応答が行われた。



日本機械学会の関東支部総会は3月10、11日、オンラインで開催され、本学機械工学科の佐野正利教授II写真IIが功績賞を受賞した。

佐野教授は、熱や流体の移動現象を実験と数値シミュレーションで解明し、エネルギー変換機器の性能向上や熱エネルギーの有効利用を研究している。

授賞理由によると佐野教授は、流体工学分野の

教育と研究に従事し、多くの技術者の育成と流体工学分野の発展に顕著な功績を収めるとともに、関東支部役員として長年にわたり尽力した。

特に第25期には総会・講演会の大会委員長を務め、事業を成功裏に導き、関東支部の発展に多大な貢献をした。

佐野教授に学会支部功績賞

流体工学分野 発展に貢献



2010(平成22)年には「関東支部千葉プロジェクト設立当初から長年、運営委員、商議員、支部幹事、メカトップ関東編集委員長、千葉ブロック長などを務め、学会と支部の発展に大きく貢献した」として、創立20周年記念式典で感謝状を授与された。

コロナ禍1年

学生生活一変

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大で、国内外の大学生生活に大きな影響がありました。本学では入学式やガイダンスの中止はもちろんです。緊急事態宣言で学内立ち入り禁止まで……例年とは全く異なる対応を求められました。2020年の学びのフィールドで、学生はどんな気持ちで過ごしたのか。2人の寄稿と、アンケートへの回答を紹介します。

2020年

4月

- 入学式・ガイダンスを中止
- 緊急事態宣言発令



●iPadを活用した授業（オンライン授業）がスタート

5月



- 一部対面授業開始
- 松井孝典常務理事が第13代学長就任
- 萩生田文科相が新型コロナウイルスに関する学生支援や感染症対策への取り組みを視察

6月

7月

- 日経HR発行「価値ある大学2021年版 就職力ランキング」採用を増やしたい大学で本学が10位に
- ウェブ・オープンキャンパス公開

8月



●入構規制を解除



- 全学科対面授業開始
- 全学生にマスク・マスクケース・食券2万円分を支給
- 全学生・教職員へPCR検査導入
- 令和2年度秋季学位記授与式・秋季入学式
- ウェブ・オープンキャンパス公開
- クラブ・サークル活動を段階的に再開

9月

2021年

10月



- 受験生支援で令和3年度共通テスト利用入試の検定料免除を決定

11月



- 「はやぶさ2」ミッション成功 惑星探査研究センター研究員らの貢献で
- 後期授業終了
- 大学祭をオンラインで実施

12月

1月



- 大学入学共通テスト利用入試（前期）・過去最多志願者数を記録
- 6号館に除菌ブース設置

2月

- A日程入試、B日程入試
- 大学入学共通テスト利用入試（中期）

3月



- C日程入試
- 大学入学共通テスト利用入試（後期）
- 学位記授与式

対面授業の復活に喜び

応用化学科4年 酒井 祐輔さん

これまで自由に行動していた毎日が一変し、生活様式自体は変わりました。人が多いところや電車に乗ることも極力避けるようになりました。

大学構内への立ち入りも禁止となり、いち早くオンライン授業に切り替わった

ここで、オンライン授業自体は自分の都合に合わせて受けられる点や気になるところを何度も確認できたため、不自由を感じることはありませんでした。ただ、オンライン授業に慣れたところで、突然来週から対面！となったときは、うれしい反面、少し急な変化に、自由には大学へ入構できませんでしたが、入構時間が制限されていたことで、時間を無駄なく効率よく研究に使えるようになりました。体重が10kg減ったことは、コロナ禍ならではの出来事で、びっくりしています。



決して、自由には大学へ入構できませんでしたが、入構時間が制限されていたことで、時間を無駄なく効率よく研究に使えるようになりました。体重が10kg減ったことは、コロナ禍ならではの出来事で、びっくりしています。

旅行や送別会中止が残念

情報ネットワーク学科4年 板谷 英志さん

講義の形態が主にオンライン形式に変わったことが、やはり、コロナ禍における一番の変更点でしょうか。

本学は他大学に比べ対面授業の開始も早く、キャンパス内に学生の姿が戻り、数が増え始めた頃は、学内のサポートでできたこと、また、進学や留年などの相談にも乗ることができたので、精神面もサポートできたのではないかと思います。

この環境下で改めて学んだことは、人と人とのつながりがとても大切であると感じています。



最近、35歳で全日本卓球選手権個人単に初出場した岩城積さんの卓球人生について知る機会があったのですが、25年間努力する姿を目の当たりにし、自分も諦めずに何かに挑戦してみようと思いました。ただ、最後の年でもあり、多くの友人と旅行や送別会などを企画していたことがすべて中止になってしまい、本当に残念です。

どんな日常？ アンケート

▼授業・学びについて

先生のスライドが見やすく、声が聞きやすかった。好きなタイミングで受講ができ、また、家が遠いため、これまでの通学時間も有効に利用できた。資格取得のための勉強にも挑戦しました。（応化2年）

後期の授業で約半年ぶりに学科の友達みんながそろった時、うれしかった。（材料3年）

前期の間は入構制限のため、研究が思うように進まなかった。リモートの機会が増えたため、併せてPC周りの環境を整えた。（PM4年）

PCやスマホ、iPadを見る時間が増えた。オンデマンド授業が多いと、スケジュールを自分なりに工夫できた。視力が下がった。（応化3年）

画面見る時間が増えた
筋トレ、車免許を取得

▼生活や友達との付き合い

外出は極力控えていたため、交通費を抑えられました。ただ、外出する際はマスクをつけたいと不安に。運動不足を感じ、自宅で筋トレを始めました。（都市4年）

友人に会える機会が減って寂しかった。1日何もしない日もあったが、Zoomなどを利用して友人と話すことも、慣れば楽しく感じました。（PM3年）

気軽に遠出しなくなったが、オンライン開講を利用して自動車教習所に通い、免許を取得しました。（経情3年）

大学祭のスタッフとして、最後までやり遂げることが出来たことは感動した思い出です。（NS3年）

▼就職・就職活動

入試広報課学生スタッフでの経験が、グループワークに役立ち、あまり緊張せずいつも通りに参加することができた。（機電3年）

インターシップに参加したことや、試験問題の対策をしたこと、学友会の活動を通して人と接する機会が多かったことが内定に結び付いたと思う。（都市4年）

職員（4人）



小笠原 茂 (総務課・自動車運転手)

入職以来、皆様の協力を得まして充実した勤務ができました。心より感謝申し上げます。



柿山 正美 (学生センター・部長)

大変お世話になりました。とても感謝しております。



國京 正典 (新習志野学生課・警備員)

伝統ある本学で、皆様のおかげで楽しく勤務させていただきました。誠にありがとうございました。



鈴木 憲子 (学務課・担当課長)

楽しい46年間をありがとうございます

定年退職の皆さん

3月に定年を迎えられた教職員の皆さんを紹介いたします。大学と学生たちに、思い出と励ましの言葉を残してくださいました。(敬称略)

教員（6人）



伊與田 光宏 (情報工学科・教授)

1983年に着任し、88年に新設された情報工学科に移籍し、同学科に33年連続勤務いたしました。本学、本学科のいろいろな発展を経験できて有難いことでした。



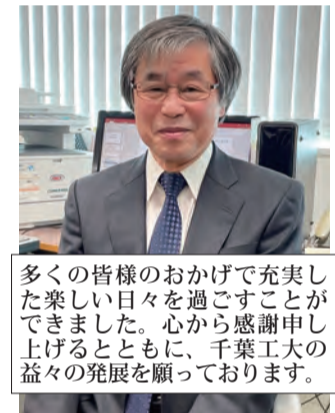
菅原 研次 (情報ネットワーク学科・教授)

皆様のご活躍をお祈りします。



浮貝 雅裕 (情報ネットワーク学科教授)

私にとって千葉工業大学は第二のふるさとです。長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。



佐野 正利 (機械工学科・教授)

多くの皆様のおかげで充実した楽しい日々を過ごすことができました。心から感謝申し上げますとともに、千葉工大の益々の発展を願っております。



鈴木 誠 (都市環境工学科・教授)

がんばれ、千葉工大生！



山田 丈富 (建築学科・教授)

長い間ありがとうございました。千葉工業大学の益々の発展を願っております。

エリアI、II 展示再開

■ コロナ休館のタウンキャンパス

新型コロナウイルスで緊急事態宣言が発令され、本学は東京スカイツリータウン キャンパスを臨時休館と



休館中にエリアI「ロボット技術・人工知能ゾーン」では、未来ロボット技術研究センター(fuRo)と(株)パナソニックの混成チームが製作したコンセプトモデルをベ

PPA



昨年コロナ発生から約1年、教育現場として対応に追われた年になりました。

大学は専門教育を学ぶとともに人間力を育てる場としてもその役割を担っています。人は人と接することに人として成長していきます。対面での授業で教職員や学

生同士の会話や課外活動等における先輩後輩を含む多くの学生間で同じ目的、目標をもった行動は成長の過程での大きな要素となります。これらの大切な機会を損なわないように、このコロナ禍においても大学としては可能な限りのコロナ感染症の予防措置をとり、これからの対面授業や課外活動の機会を確保していきたいと考えています。

四季雑感



人並みにSNSを始め10年くらいになる。主にはFBなのだが、日記もつけた事なく諸々長続きしない性格の割には投稿している。

ある1号館から見る東京方向の夕景が綺麗なので、勉強している学生にも声かけて無理やり(?)一緒に見せ、夕陽を撮影したり解説したりしていた。

当初はタブレットを使っていて、スマホへの切り替えが遅めだったので、学生プロジェクトなどの投稿が多かった。ス

今ほそれができない。写真に写ったものだけでなくその時を共有した記憶が大切で、以前のよう

編集だより



恒例の花粉の到来。鼻のムズムズ、目のしょぼしょぼ……。さえない毎日が続いている。

入試広報課は、学生との関わりがとて多く、嬉しいこと、悩んでいること、夢中になっていること、学びのことなど、普段私たちが考えてもいないようなことを提供してくれ、学生たちの「気持ち」に触れることで、知らず知らず私たちの背筋がピンと伸びるのだ。入試広報業務に携

3月は学生との別れの季節であるため、こんなさえない日々が、余計に切なくさせるのだ。教職員、学生ともに、今年度はこれまで経験したこと

フ、オープンキャンパスやイベントに積極的に参加してくれる自治会の面々、無理難題にいやな顔一つせず、サクサクと期待に応えてくれる。感謝の言葉は言い尽くせないけれど「卒業生の皆さん、本当におめでとうございます」。この1年を過ごした分、卒業生として、いつか会える